

きべりはむし

第7巻 第1号

目 次

兵庫県のムカシトンボ産地	奥谷禎一	1
六甲山系（西部）の蝶	三木 進	2
兵庫県におけるラミーカミキリの分布	高橋寿郎	8
三木市内のギフ蝶	小倉 滋	12
県下最初の採集記録	小林桂助	14
「能勢の昆虫」 その後（I）	仲田元亮	15
オグラカバイロコメツキ伊丹市に産す	有本久之	19
オオシロカミキリ浜坂町に産す	小倉 滋	20
宝塚市のアオマツムシ	奥谷禎一	20
三木市産カミキリの訂正と追加記録	三木 進	21
“キョウトアオハナムグリの分布について” 補遺		
	高橋寿郎	21
文献紹介		24
会員名簿		25

兵 庫 昆 虫 同 好 会

1979年 5 月

兵庫県のカシトンボ産地

奥谷 禎 一

昭和53年度に、日本昆虫学会は環境庁の委託により、第2回自然環境基礎調査の1部、全国昆虫分布調査を行った。筆者は、この調査の全国の総括、近畿の代表、兵庫県の総括責任者と1人3役をこなす破目になり、兵児の諸兄にも大いに助けて頂いた次第であり、感謝に耐えない。

この全国調査の指標昆虫として、カシトンボがあり、県内の分布について、今までの記録と、筆者の知人に問合せ、次の市町がわかった。

多紀郡：篠山町（篠見、火打岩、後川）；丹南町（竜蔵寺、文保寺）、氷上郡：氷上町（石生）；春日町（黒井、春日部）、神戸市東灘区鴨子原、三田市小柿、西脇市比延、城崎郡香住町（三川山）、美方郡村岡町（小城、兎和野）；温泉町菅原、養父郡関宮町（二見川、鶴鷯、八木川）、多可郡加美町三国岳、朝来郡生野町栃原、神崎郡大河内町川上、飾磨郡夢前町山之内。

このうち、神戸市のものは、現在宅地化しているので、絶滅してしまっていると思われる。この記録は以前から六甲山として扱われていたもので、小林桂助氏に伺って初めて正確な場所を知ったものである。この様子を地図に町毎に発見されている市町に○印を付して、眺めてみると、まだまだ発見されそうな市町のあることがわかる。本巻は、案外狭い巾50cm位の溪流にも生息しているので、5月の成虫期をねらうだけでなく、水中の幼虫を探索の方が簡単である。但馬地方の記録の多くは、西村登氏が水棲昆虫調査で幼虫を産卵されたものであり、筆者



兵庫県におけるカシトンボ産地

も篠山で、火打岩、竜蔵寺では幼虫を発見して確かめたものである。本種の幼虫は幼虫図鑑などを見て頂くとわかるが、非常に特徴のあるもので、若いうちは流水の礫みなどで発見できる。老熟すると浅い湿地状態の所まで這い上る性質もあるので、4～5月には溪流の崖ふちの湧水のある所を採すとよい。水上郡は山本義丸氏によりよく昆虫相の調査された所で、幼虫だけの記録がある。また、船越の内海功一氏は佐用郡では、ムカシトンボの生息地になるような所が、古くから砂鉄採取のため荒されているので、いないのではないかと便りを下さった。

採集に出掛け、溪流で水を飲んだり、食事をされることも多いと思う。その節は、短時間でも、幼虫を探されることを念願する。

六甲山系（西部）の蝶

三 木 進

熱病のように蝶を追った中学、高校生時代。六甲山系西部の布引谷周辺を中心に約80種採集したが、現在大半の標本は散逸してしまった。13～15年前の古い記録だが、犠牲となつた蝶たちのためにも、採集ノートと写真からデータを拾ってみた。（21-X-1978）。

A. Papilionidae アゲハチョウ科

1. *Papilio xuthus* アゲハチョウ 鉄拐山, 1♂, 1.6.1965.
2. *P. machaon hippocrates* キアゲハ 菊水山, 1♂, 19.4.1964.
3. *P. macilentus* オナガアゲハ 市ヶ原, 1♀, 23.6.1963. やや少ない。
4. *P. bianor dehaanii* カラスアゲハ 鉄拐山, 1♂, 1.6.1965.
5. *P. protenor demetrius* クロアゲハ 旗振山, 1♂, 15.5.1965.
6. *P. helenus nicconicolens* モンキアゲハ 旗振山, 8♂, 1.6.1965.

周辺に蝶道をなし多産。

7. *Byasa alcinous* ジャコウアゲハ アイスロード, 3♂, 1♀, 16.5.1965.
8. *Graphium sarpedon nipponum* アオスジアゲハ
森林植物園, 1ex., 6.6.1965.

B. Pieridae シロチョウ科

9. *Pieris rapae crucivora* モンシロチヨウ 鳥原貯水池, 1♂, 26. 4. 1963.
10. *P. melete* スジグロチヨウ トウエンテイクロス, 1♂, 2. 4. 1964.
11. *Anthocharis scolymus* ツマキチヨウ 菊水山, 3♂, 2♀, 19. 4. 1964.
12. *Eurema hecabe mandarina* キチヨウ 鳥原貯水池, 2♀, 26. 4. 1963.
13. *E. laeta bethesba* ツマグロキチヨウ
車の大池, 1♂, 19. 9. 1964. 平地に多い。
14. *Colias erate poliographus* モンキチヨウ
菊水山, 1♀, 19. 4. 1964.

C. *Lycaenidae* シジミチヨウ科

15. *Narathura japonica* ムラサキシジミ 布引・城山, 1ex., 13. 6. 1964.
16. *Artopoetes aryeri* ウラゴマダランジミ
市ヶ原, 23exs., 9. 6. 1963. 布引谷に多産。
17. *Ussuriana stygiana* ウラキンシジミ
市ヶ原, 1♂, 1♀, 21. 6. 1964. 少ない。
18. *Japonica lutea* アカシジミ 布引貯水池, 2exs., 21. 6. 1964.
19. *J. saepestriata* ウラナミアカシジミ
布引貯水池, 2exs., 21. 6. 1964.
20. *Antigins attilia* ミズイロオナガンシジミ
布引貯水池, 2exs., 14. 6. 1964.
21. *Wagimo signata* ダイセンシジミ
布引貯水池, 10exs., 14. 6. 1964. 2exs., 21. 6. 1964. 1ex., 16. 6. 1963.
現在の新幹線・新神戸駅の北にある城山から布引一帯、貯水池、再度山にかけて当時はかなりの個体が発生していた。10頭採集したのは雨の日で下草にとまっていた。
22. *Favonius orientalis* オオミドリシジミ
市ヶ原, 1♀, 21. 6. 1964. ウツギに訪花。
23. *Neozephyrus taxila japonicus* ミドリシジミ
多井畑, 1♂, 1♀, 11. 7. 1964.
24. *Rapala arata* トラフシジミ 森林植物園, 1ex., 9. 6. 1963.
25. *Ahlbergia ferrea* コツバメ 森林植物園, 9exs., 1. 4. 1963.

26. *Taraka hamada* ゴイシシジミ 車大道, 2 exs., 6. 7. 1964.
27. *Lycaena phlaeas daimio* ベニシジミ 車大道, 3 ♂, 3. 4. 1963.
28. *Niphanda fusca sbizima* クロシジミ 森林植物園, 2 ♂, 10 ♀, 7. 1964.
29. *Lampides boeticus* ウラナシジミ 市ヶ原, 1 ♂, 2 ♀, 23. 9. 1963.
30. *Everes argiades hellotia* ツバメシジミ 菊水山, 1 ♀, 19. 4. 1964.
31. *Zizeeria maha argia* ヤマトシジミ 市ヶ原, 1 ♀, 18. 7. 1965.
32. *Zizina otis emelima* シルビアシジミ 車大道, 1 ♂, 9. 8. 1964. 少い。
33. *Celastrina argiolus lodonides* ルリシジミ 森林植物園, 1 ♂, 2. 4. 1964.
34. *Curetis acuta paracuta* ウラギンシジミ 市ヶ原, 1 ♂, 1 ♀, 23. 9. 1963.

D. *Danaidae* マダラチョウ科

35. *Parantica sita nipponica* アサギマダラ トウエンテイクロス, 6 exs., 6. 6. 1965.

E. *Libytheidae* テングチョウ科

36. *Libythea celtis celtoides* テングチョウ トウエンテイクロス, 6. 1964.

6月上旬、布引谷に多量発生し、つむじ風のようになって吸水していた。

F. *Nymphalidae* タテハチョウ科

37. *Argynnis anadyomene midas* クモガタヒヨウモン 市ヶ原, 1 ex, 29. 5. 1963. 少ない。
38. *A. paphia geisha* ミドリヒヨウモン 森林植物園, 4 ♀, 23. 9. 1964.
39. *Damora sagana ilona* メスグロヒヨウモン 森林植物園, 2 ♂, 1 ♀, 21. 6. 1964.

40. *Argyronome laodice japonica* ウラギンスジヒヨウモン
摩耶山, 1ex., 3. 7. 1963.
41. *A. ruslana lysippe* オオウラギンスジヒヨウモン
再度谷, 1ex., 14. 7. 1964. 少ない。
42. *Fabriciana adippe pallescens* ウラギンヒヨウモン
森林植物園, 1♂, 1♀, 21. 6. 1964.
43. *Argyreus hyperbius* ツマグロヒヨウモン
摩耶山頂, 1♂, 26. 7. 1964.
44. *Ladoga camilla japonica* イチモンジチヨウ
森林植物園, 1♂, 6. 6. 1965.
45. *L. glorifica* アサマイチモンジ
市ヶ原, 1♂, 1♀, 18. 7. 1965.
布引谷ではイチモンジよりアサマのほうがやゝ多い。
46. *Neptis sappho intermedia* コミスジ
アイスロード, 1ex., 16. 5. 1965.
47. *Paraneptis pryeri* ホシミスジ
市ヶ原, 1♂, 23. 6. 1963. 多産する。
48. *Kalkasia phillyra excellens* ミスジチヨウ
森林植物園, 1ex., 9. 6. 1963.
森林植物園とトウエンテイクロスを経る谷にのみ見られた。
49. *Vanessa cardui* ヒメアカタテハ
トウエンテイクロス, 1♂, 10. 9. 1963. やゝ少い。
50. *V. indica* アカタテハ トウエンテイクロス, 2exs., 9. 6. 1963.
51. *Kaniska canace no-japonicum* ルリタテハ
森林植物園, 1ex., 1. 4. 1963.
52. *Nymphalis xanthomelas japonica* ヒオドンチヨウ
森林植物園, 6exs., 9. 6. 1963.
53. *Polygonia ca-aureum* キタテハ トウエンテイクロス, 2exs., 10. 9. 1963.
54. *Apatura ilia substituta* コムラサキ
市ヶ原, 1♀, 9. 6. 1963.

55. *Dichorragia nesiomachus nesiotes*. スミナガシ

森林植物園, 1exs., 11. 8. 1965. 少ない。

56. *Hestina japonica* ゴマダラチヨウ 旗振山, 1♂, 1. 6. 1965.

G. *Satyridae* ジャノメチヨウ科

57. *Ypthima argus* ヒメウラナミジャノメ

市ヶ原, 1♀, 23. 6. 1963.

58. *Y. motschulskyi* ウラナミジャノメ

長田区堀切, 7exs., 9. 6. 1964. 天狗道, 1ex., 6. 6. 1965.

局地的で二箇所のみで採集。ただし堀切の発生地は現在、団地になっている。

59. *Minois dryas bipunctatus* ジャノメチヨウ

車大道, 1exs., 9. 8. 1964.

60. *Mycalesis gotama fulginia* ヒメジャノメ

車大道, 1ex., 9. 8. 1964.

61. *M. francisca perdiocas* コジャノメ 市ヶ原, 1ex., 3. 6. 1963.

62. *Lethe diana* クロヒカゲ 徳川道, 1ex., 26. 7. 1964.

63. *L. sicelis* ヒカゲチヨウ 市ヶ原, 1ex., 23. 6. 1963.

64. *Neope goschkevitschii* キマダラヒカゲ

旗振山, 6exs., 15. 5. 1965.

65. *Coenonympha oedippus annulifer* ヒメヒカゲ

車の大池, 16exs., 10. 6. 1964.

車の大池(車大道と丸山の中間)の約1キロにある湿地。現在(1973. 10)も残っており、ハツチヨウトンボも産す。

66. *Melanitis phedima oitensis* クロコノマチヨウ

トウエンティクロス, 1♀, 4. 11. 1963.

まだ新鮮な個体だった。山本広一氏所蔵。

ササの葉に止まっていたが付近にジユズダマも生えていた。

兵庫区須佐野通, 1♀, 29. 9. 1962.

須佐野中学校の教室内に入ってきた。山本広一氏所蔵。

H. Hesperiidæ セセリチヨウ科

67. *Erynnis montanus* ミヤマセセリ

高尾山, 1♀, 19. 4. 1964.

68. *Daimio tethys* ダイミヨウセセリ

旗振山, 1♂, 1. 6. 1965.

69. *Choaspes benjaminii japonica* アオバセセリ

青谷, 1ex., 3. 6. 1966. 摩耶山, 青谷でしか発見できなかった。

70. *Potanthus flavum* キマダラセセリ

布引貯水池, 5exs., 4. 7. 1965.

71. *Thymelicus sylvaticus* ヘリグロチャバネセセリ

森林植物園, 4exs., 4. 7. 1965.

72. *Ochlodes ochracea rikuchina* ヒメキマダラセセリ

森林植物園, 1ex., 4. 7. 1965. 少ない。

73. *Thoressa varia* コチャバネセセリ トウエンテイクロス, 6exs., 18. 7. 1965.

74. *Isotimon lamprospilus* ホソバセセリ

市ヶ原, 2exs., 18. 7. 1965.

75. *Polytremis pellucida* オオチャバネセセリ

布引貯水池 1ex., 4. 7. 1965.

76. *Pelopidas mathias* チャバネセセリ 森林植物園, 1ex., 4. 7. 1965.

77. *Parnara guttata* イチモンジセセリ 車大道, 1ex., 9. 8. 1964.

後記。この他に森林植物園のヒメジヨオンの花上でスジグロチャバネセセリらしい個体を採集、ミヤマチャバネセセリがチャバネセセリに混じっていたが、ともに標本がなく定かでないのではぶいた。また西六甲では鳥原貯水池にミヤマカラスアゲハが産し、友人が数頭採集した。さらに六甲山系とその周辺では、武田尾でギフチヨウ。道場町でギンイチモンジセセリとクロツバメジミ、東六甲でオオウラギンヒヨウモン、北区でオオムラサキなどが産するようで「六甲山の蝶」は八十数種にのぼる。

兵庫県におけるラミーカミキリの分布 (兵庫県甲虫相資料・68)

高 橋 寿 郎

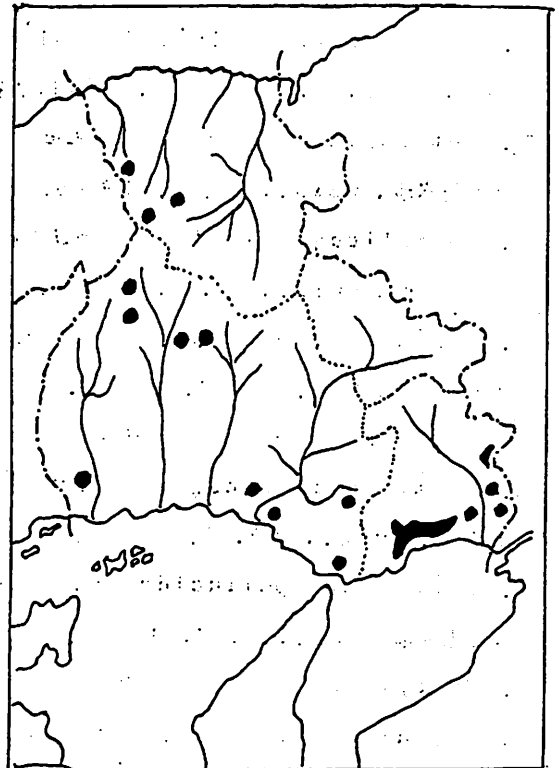
美しいカミキリである。小形であるが(体長8~17%)真つ黒に美しい白青色の軟毛でおゝわれた斑紋を有する。この白青色は生きている時は大変鮮か死後白黄色に変化する、従つて標本を見た感じと生きて活動しているときと可成り違ふ、やはり生きて飛んでいる時とか葉上に止まっているときより一層美しい。

いかにも南方系の種だなあという色彩を呈している。北支那産をタイプ標本として1853年Saundersによつて新種記載され(Trans. Ent. Soc. London, 2(1): 112, Pl. iv. f1), 種名は中國に駐在した英國領事フォーチモン(Fortune)に獻名されている。

日本からの初記録は1929年高橋 葵氏が長崎県下からされたものであると(病害虫雑誌, 16(8):452)(広瀬幸一氏の“ラミーの害虫に就いて、昆虫世界、40巻、470号、P351~355、1936”なる報文の中で“本種は長崎県下に於て発生すると云われている”と記されたのは前記高橋氏の報文を引用されたのかも知れない。また1938年には福岡県から始めての記録として福岡市内大濠公園内人家の燈火に1938年8月10日午後8時頃飛来せしものを採集したとある“高瀬経倫、虫の世界、vol. 2, No. 9/10:199, 1938”。

戦前は調査が不充分たつたこと及び情報交換が余り活発でなかつたこと等により本州からの記録は無かつたように思われる。

戦前での図説は平山修次郎氏が2度にわたり原色で図説されている。即ち、原色千種統昆虫図譜



兵庫県におけるラミーカミキリの分布

(pl. 73, f8, p. 164, 1935). 原色甲虫図譜 (pl. 45, f. 8, p. 138, 1940) 共に同一図版であるが長崎県産の標本を図示してどうしたわけか分布を九州とのみ記録している。1940年発行の有名な水戸野武夫著“日本産鞘翅目分類目録, Pars. 8, 天牛科”には分布として Japan (Honsyu, Kyushu), Formosa, China, Chusan Islands (Tamason Island) が掲げてありこゝでは分布に本州を入れておられる。氏が本州にラミーカミキリが侵入した模様と紹介されたのは1950年のことである(新昆虫, 3(7/8): 10-11) 従つて前記目録の時の本州なる分布はどの様な記録に基かれたのか一寸不明。終戦直後に出版された関 公一著の新日本産天牛科目録(1946)には分布を日本(本州, 九州), 台湾, 支那, 舟山列島とされている。本書は多分に水戸野氏の文献の引用があるようなので、この本州の分布がはたしてどの様な記録の裏付けで発表されているのか一寸わからない。たゞこの時点では四国の分布は知られていなかったようである。終戦前後には本州の山口、広島県あたりには分布していたのではないだろうか? とに角1948年(昭和23年)東正雄氏が有馬温泉林溪寺内で本種が大発生したと紹介された(新昆虫, 1(9): 42) ことにより本種が兵庫県下で始めて正式に産することが報ぜられると共に本州での産も之が初めての記録になるのではないかと思われる。翌1949年には戸澤信義氏が西宮市甲東園から記録された(宝塚昆虫館報, №60: 20) がその中で25年来甲東園に住んでいて一度も本種を見たことがないと記されると共に林 匡夫博士からの私信として神戸市内、名古屋市内、岡山の足守、松江郊外と同時に記録が出始めていることを記しておられる(記録の項にもあるように筆者の兵庫県下で始めて本種を採集したのは戸澤氏の記録された年山の街で採集している。1ex., 10-v11-1949, また御影での採集品は進行中の阪急電車の中で丁度御影駅をすぎた所で車内に飛び込んできたのを採集したものである。1ex., 18-v1-1955)。

四国からの記録は何時頃からあつたのか。1953年石原 保博士その他の方々の“石 鎭山と面河溪の昆虫相”(四国昆虫学会々報, vol. 3, Suppl.) の中で本種が四国で近年増加の傾向にあると記しておられる(p. 98)(楠 博幸・菅 晃著、1978年刊“愛媛県のカミキリムシ”の中の本種の記録も1953年採集のものが一番古く記録されている)。

この様にして本種は現在では本州、四国、九州に分布する種になつているし所によつては大発生しており普通種になつている。少くとも兵庫県下では普通種である。

本州の東限は現在千葉県市原郡里見といわれている(げんせい, 16: 13, 1966, 中村 肖夫)が兵庫県から東の地区では小田原市に多く産する記録がある(月刊むし, №39: 19, 1978), それ以外で今の所それ程多く産するという地の報告は知らない。たゞ分布は東にひろがつているようである。

所で兵庫県下での本種の分布状況を一応眺めてみたい。前にも記した如く兵庫県下で本種を始め
て記録されたのは東 正雄氏による有馬である。それから割合記録が報告されている、此処に兵庫
県の産を東から順に記して見よう〔 〕は記録、()は筆者採集

川西市一庫〔 17-V1-1966、仲田、1970、16-V1-1968、仲田、1978〕、
笹部〔 2-V11-1972、9-V11-1972、28-V-1973、9-V1-1973、28-V11-1973、
9-V1-1974、29-V-1975、6-V1-1975、20-V1-1976、8-V1-1977、仲田、1978〕。

伊丹市内(1ex., 1-V11-1956)。

宝塚市紅葉谷〔大倉、遊磨、1974〕。

西宮市〔 V1-1950、林、1955〕、甲東園〔 1♀、11-V11-1949、1♂、13-V11
-1949、1♀、14-V11-1949、戸沢、1949〕。

神戸市本山町〔 2exs., 29-V1-1950、石井、1952〕、東灘〔 1ex., 18-V1-1955、
吉阪、中谷、1956〕、御影町(1ex., 18-V1-1955)、布引〔 3exs., 26-V1-1955、
吉阪、中谷、1956〕、烏原〔 4exs., 8-V11-1965、2exs., 17-V11-1966、
8exs., 31-V11-1966、1ex., 7-V11-1968、2exs., 27-V1-1971、1ex.,
14-V11-1973、1ex., 24-V11-1974、1ex., 3-V11-1974、1ex., 27-V11-
1975、3exs., 29-V-1976、36exs., 6-V1-1976、45exs., 12-V1-1976、
55exs., 13-V1-1976、61exs., 27-V1-1976、23exs., 4-V11-1976、20exs.,
11-V11-1976、12exs., 18-V11-1976、1ex., 22-V-1977〕、山の街(1ex.,
10-V11-1949)、教育植物園(1ex., 9-V11-1961)、木幡(1ex., 28-V-1961)、
藍那〔 2exs., 14-V1-1978、4exs., 19-V1-1978、8exs., 14-V11-1978〕、
有馬温泉林溪寺〔 2exs., 9-V11-1947、65♂、15♀、20-V1~28-V11-1948、東、
1948〕、明石市〔 ♂、V1-1954、山口、1955〕。

三木市志染町大谷〔 3exs., 7-V11-1976、三木、1978〕

加古川市内〔 中谷、吉阪、1956〕

神崎郡香寺町須加院〔 3exs., 15-V1-1974、森田、1975〕、大河内町川上〔 2exs.,
2-V11-1977、1ex., 15-V11-1977、1ex., 6-V11-1977〕

朝来郡生野栃原〔 1ex., 26-V11-1972、藤田、1973〕

相生市三渡山(1ex., 20-V11-1974)

宍粟郡福知溪谷(1ex., 20-V1-1976)、赤西溪谷〔 1ex., 25-V11-1968、

26x, 15-V111-1971, 黒田, 1972., 1ex, 30-V11-1972, 1ex, 6-V111-1972, 畑中, 1972.), 音水溪谷 (2exs., 16-V11-1972, 1ex, 30-V11-1972, 1ex, 3-V1-1973)。

養父郡役定〔16, 22-V11-1972, 遊磨, 1972.), 氷の山〔29-V11-1973, 高橋, 1975)。

美方郡鉢伏山麓〔1ex, 16-V11-1971, 辻, 1971, 1972)。

兵庫県下では御覧のごとく可成り広く分布しており海岸線沿いにはほぼ分布していると考えられる。中央部から氷の山, 鉢伏山迄いことになるが案外日本海側に記録が無く、多紀、氷上、出石、城崎の各郡にも記録が無いのが気になる、それと南方系でありながら淡路島から記録がないのも不思議である。

神戸電鉄の木幡駅前のムクゲに多く発生しているのを目撃したことがあるが烏原貯水池の奥は、1965年頃から毎年採集出来ており1976年には今迄どうも出現期を間違えて考へていたようで御覧のごとく6〜7月上旬に物凄く発生しているのに遭遇した。現在藍那付近にも多くいる所謂神戸電鉄沿線は広く多く産する地域である。神崎郡大河内町川上でも可成り発生しているのを目撃した。

本種の食樹としては小島圭三・岡部正明氏がまとめておられるのによるとトウグワ、ヤブマオ、ラミー、ムクゲがあげられている(日本産カミキリムシ食樹総覧, 1960)。

幼虫の記載は次の文献に詳しい“小島俊文, Jour. Coll. Agric. Tokyo Imp Univ, 11(3):1931, 小島圭三、げんせい、№9:58, pl. 19, 27-29, pl. 20, 1-3, 1959., №10:21-46, 1960”(成虫の産卵と幼虫の食性)。

上翅の基部の黒色部の中央側方に白青色の小紋があるのが原型であり、10余型が知られているとのことであるが日本産のものは変化が少ない。

参考までに烏原で1976年に採集した255個体(データーにあるように5月29日より7月18日迄に採集したもの)を型にわけて見ると基本型(原型・上翅基部の黒色部の中央側方に白青色の小紋があるもの), 204個体。

m. innotata Pic. (白青色紋を欠くもの), 24個体。

m. bisbimotata Pic (白青色紋が2個ならぶ), 15個体

m. fasciata Pic (白青色紋が会合線近くまで拡大する), 12個体。

ということになり割合斑紋の変化というものは少いようである。体の大小もそうばらつきがある

ように思われないが8%から1.7%位のものまでいる(渡部泰明、中村慎吾両氏が広島県産の標本に基いて前胸背の斑紋、翅鞘の斑紋の変化をまとめておられるが翅鞘の変化は大体鳥原産の傾向に似ている“広島虫の会々報、№15:165-167, 1976.”)。

(付記)本報文は1977年に姫路昆虫同好会誌“てんとうむし”に原稿として送ったが同会が休会状態なので若干補足してまとめたものである。

三 木 市 内 の ギ フ 蝶

小 倉 滋

今年も、3月14日頃より、室内飼育のギフチョウが次々と羽化して、次々と飛んでゆく。屋外のものも、3月28日にさなぎから脱出した殻がみられたので、自然のものも羽化しているのであらう。

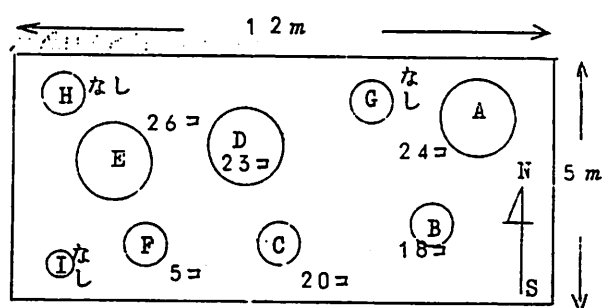
かつて、三木市広野地区では、“春の女神”といわれる美しいギフチョウが多く見られ、午前中はゆつたりと低く、午後は、高くすばやく飛ぶ姿が見られたという。

しかし、開発によつて、このギフチョウも激減した。

日本の特産種といわれるこのギフチョウは、氷河時代の生き残りの特徴を多く備えた貴重な蝶で、第三紀ごろ、分布が定まったといわれている。カンアオイ属を食べて、アジアに広く分布していたと考えられているが、その食草の分布から考えて、第四紀の氷河時代に海流の影響を受け、比較的温暖であつたと考えられる日本を残して絶滅してしまつたらしい。三木地方では、中新世層の神戸層群(三津田累層・淡河累層)と、その上部を覆う新世紀の大阪層群からなり、山地は、酸性土壌のやせ地で、赤松を主体に、二次林は暖帯広葉樹林におおわれている。樹相も貧弱であるが、ここに74種の蝶が確認されている。

小生は、ギフチョウの調査を、成虫の採集場所で確認するやり方を信用できず、食草確認は困難であるが、たんねんに産卵を確認することで生存を推定することにしている。食草となる産卵植物は、ヒメカンアオイであるが、これは、東播磨の加古川東岸流域に多いものである。食草の群落は、地歴に合致しており、第1次河岸段丘下位部の、日光が適当にあたり、水分は保水力は良いが、排水のよい部位に生育し、地歴的には、ヤマホトトギスやウラシマソウ、ミスミソウなどの植物と混生している場合が多いし、周辺の植物として、エビネランなどがみられる。

ギフチョウの産卵場所での生育状況を観察した結果は次のような状況である。



項目 \ 群 落	A	B	C	D	E	F	計
産卵数 4月21日	24	18	30	23	26	5	126
ふ化数 5月2日	22	18	27	21	25	5	118
体長4% 5月5日	2.1	1.7	2.7	1.5	2.1	5	10.8
5月8日	1.4	3	1.2	1.0	2	4	4.5
3期眠 5月26日	8	0	9	0	0	4	21
終令幼虫 6月5日	3	0	6	0	0	3	12

昨年度の飼育記録は産卵4月21日、ふ化5月2日、5月7日一期眠、5月27日蛹化、3月24日に羽化した。

5月27日から、9ヶ月という長い間、蛹でいるが、休眠は温度に影響されることが多く、温度が、15℃～16℃以下であれば、体質の変化はおこらず、恒温槽で23℃で育てると、顕微鏡観察下で次第に脂質が変化して、成虫変移がみられ、1月には成虫となった。

6月5日の調査では、すでに生存状況は一部に満たず、9ヶ月にわたる蛹の時代や、終令虫時代の天敵による被害を考えれば、生き残るのはわずか数匹にすぎないと考えられる。

天敵は、クモ、ダニ、寄生蜂、小鳥等々が考えられるが、飼育中に発見した天敵として、最も恐いものは「ナメクジ」であった。ナメクジがどのように食害するのは、この動物が夜の活動をするため、まだ観察ができていないが、ナメクジだけのいる食草の幼虫が全滅していることを見ても、その害は明らかである。その他、クモも、幼虫・成虫の大敵であり、食草を求め歩いた幼虫が、クモの巣にぶら下がっている姿を見るのも痛々しい。

このように、自然の、厳しい生態系の下で、大古を生きぬいたギフチョウは、三木市内でもひっそりと生き続けている。氷河期の短い夏に、あわただしく育ち、きびしい環境下をじつと耐え、生

き抜いたたくましさ、その美しさからは想像できない。三木市内に残る数少ない貴重な自然を、大切にしたいものである。

県下最初の採集記録

小林 桂 助

私が昆虫採集に熱心であつたのは大正13年頃から昭和8年頃までであり、その後は鳥類の研究に転向したので昆虫とは疎遠となつた。しかし当時採集した標本は虫害をうけることもなく今日でも完全な形でキャビネットの中に残っているのもその中から県下としては最初の記録になると思われるもの数種を以下に報告する事とした。

ここ数年は鳥の調査に出かける毎に昆虫にも注意を払っているが、自宅に近い六甲や摩耶では目星しいものに出会う事がない。しかし昔は交通の便の悪かつた但馬や丹波の山々にも容易に行ける時代となり、ハヤシミドリシジミ、メスアカミドリシジミ、ウラクロシジミ、キマダラルリツバメ、ヒサマツミドリシジミ、ウスイロヒヨウモンモドキ、ホシチャバネセセリ、ギンイチモンジセセリなど往年は県下としては採集の困難であつた蝶をも比較的容易に採集することが出来るようになったのは喜ばしいことである。

キベリハムシ

兵庫県特産種として有名な甲虫であり、最初の採集記録は昭和の初期（昭和8年頃）と報告されている様である。所が筆者はそれより先大正15年8月に澁区篠原北町の自宅付近（当時は武庫郡六甲村字家ノ東）でススキの葉上に止つていた1頭を採集しているので、これが恐らく最も古録になることと思う。なお昭和45年8月16日には但馬の関宮町で3頭採集することが出来たがこれが県下の分布としては北限ではなかろうか。

セジロカミキリ

全国的に見ても比較的少ない種類であるが、私のキャビネットの中に昭和6年7月に自宅で採集した1頭が収められている。当時ペランダの燈火に飛来したものを採集した時の記憶は50年近く過去のことでありながら生き生きとしている。兵庫県下の記録としては最も古いものではなかろうか。

ギフチョウ

県下のギフチョウの分布については山本広一氏により詳しく報告されており（月刊むし、1971

年6月号)、現在神戸大学の敷地となつている所に雑木林があつた頃には多産した。

筆者がこゝで最初に採集したのは昭和2年4月20日であり其後昭和8年頃付近一帯の雑木林が皆伐造成されたことにより全く消滅してしまつた。

ダイセンシジミ

現在の六甲カトリック教会の北側に雑木林があつたのは昭和8年頃までである。その林縁部のアキニレの葉上でダイセンシジミを最初に採集したのは昭和5年6月16日であり、かなり破損した個体であつた。幸自宅から近い場所であつたので、毎朝採集に出かけ同年6月18日、19日、20日に各1頭新鮮な個体を採集することが出来た。兵庫県下としてはこれが恐らく最初の記録と思われる。当時はダイセンシジミは全国的に珍稀な蝶であり、採集家の垂涎するものであつたが大都市に近い地で採集されたことは極めて珍しい例とされていた。

「能勢の昆虫」その後(Ⅰ)

仲 田 元 亮

1978年12月、念願の「能勢の昆虫」Ⅰをだすことができました。

これを発行したことが、私自身の意欲に火をつける結果となり、甲虫学会の人達が能勢の甲虫調査をはじめられるというニュースを知ることとなり、今年は例年になくはりきつて越冬昆虫の採集にでかけました。

いくつかの未記録昆虫を手にして喜んでおりますとき、高橋寿郎さんが、同好会への入会と「きべりはむし」への投稿をおすすめ下さいました。

おお喜びで入会させてもらうとともに、大変厚かましいことですが、未記録の甲虫と、私の不注意から記録もれになつた甲虫、兵庫県側初採集の甲虫、及び「能勢の昆虫」発行後、八木正道、堀田 久、山下 晶、大垣 誠の4氏からいただいた甲虫のデーターをまとめて発表させてもらうことにいたしました。

これを協会に、兵庫県虫同好会の皆様方、よろしくお願い申し上げます。

§ Harpalidae ゴミムシ科

1. *Tachys nanus* クロチビカワゴミムシ

1979年2月11日、大阪府豊能町吉川峠、松切株樹皮下。

11 exs.

2. *Pterostichus microcephalus*

コガシラナガゴミムシ

1979年2月11日, 兵庫県篠山町上飼坊, 石おこし。

4 exs.

3. *Lachnocrepis proluxa* トツクリゴミムシ

1978年7月4日, 兵庫県川西市笹部, 燈。

1 ex.

1978年9月6日, 兵庫県川西市笹部, 燈。

1 ex.

§ Histeridae エンマムシ科

1. *Margarinotus weymarni* ヒメエンマムシ

1977年7月14日, 大阪府豊能町青貝山附近。

5 exs.

§ Staphylinidae ヘネカクシ科

1. *Astenus brevipes* ヒメシリグロヘネカクシ

1978年9月15日, 兵庫県川西市大和, 落葉ふり。

1 ex.

2. *Stilicopsis setigera* タチゲクビボソヘネカクシ

1978年9月15日, 兵庫県川西市笹部, 落葉ふり。

1 ex.

3. *Ocypus brevicornis* ヒメクロヘネカクシ

1979年2月4日, 兵庫県川西市笹部, 枯松樹皮下。

1 ex.

1979年2月11日, 大阪府豊能町吉川峠, 松切株樹皮下。

4 exs.

1979年2月25日, 兵庫県川西市笹部, 松切株樹皮下。

1 ex.

4. *Quedius parviceps* コガシラツヤムネヘネカクシ

1978年9月13日, 兵庫県川西市笹部, 燈。

1 ex.

5. *Tachyporus celatus* クロズシリホソヘネカクシ

1979年1月28日, 兵庫県川西市笹部, 石おこし。

1 ex.

6. *Erchomus scitulus* クロチビマルクビヘネカクシ

1979年3月4日, 兵庫県川西市芋生, 朽木皮下。

3 exs.

7. *Anomognathus armatus* キアシヒラタチビヘネカクシ

1979年2月11日, 大阪府豊能町吉川峠, 松切株樹皮下。

1 ex.

8. *Phymatura japonica* ミイロチビヘネカクシ

1978年10月1日, 兵庫県川西市笹部, 樹液

5 exs.

9. *Ditropalia varipes* ハラモンムネクボヘネカクシ

1978年10月1日, 兵庫県川西市笹部, 樹液。

4 exs.

§ Pselaphidae アリヅカムシ科

1. *Triomicrus protervus* マルムネアリヅカムシ

1978年9月15日, 兵庫県川西市笹部, 落葉ふるい。 1 ex.

2. *Morana discendens* マメダルマアリヅカムシ

1978年9月15日, 兵庫県川西市笹部, 落葉ふるい。 1 ex.

§ Cucujidae ヒラタムシ科

1. *Pediacus japonicus* クロムネキカワヒラタムシ

1973年5月5日, 兵庫県猪名川町木間生 1 ex.

§ Nitidulidae ケシキスイムシ科

1. *Epuraea rubronotata* アカホシヒラタケシキスイムシ

1979年3月7日, 兵庫県川西市笹部, 枯松樹皮下。 3 exs.

2. *Amphicrossus japonicus* コゲチャセマルギスイムシ

1978年10月1日, 兵庫県川西市笹部, 樹液。 3 exs.

§ Cryptophagidae キスイムシ科

1. *Cryptophagus enormis* オオオナガキスイ

1979年2月12日, 兵庫県川西市笹部, 枯松樹皮下。 1 ex.

§ Coccinellidae テントウムシ科

1. *Anatis halonis* ウンモンテントウ

(山下)

1976年4月25日, 大阪府東能勢村高台寺道。

§ Colydiidae ホソカタムシ科

1. *Microprius opacus* ツヤケシヒメホソカタムシ

1979年2月12日, 兵庫県川西市笹部, 枯松樹皮下。 1 ex.

2. *Penthelispa vilis* ツヤナガヒラタホソカタムシ

1979年2月11日, 大阪府豊能町吉川峠, 松切株樹皮下。 1 ex.

1979年2月12日, 兵庫県川西市笹部, 枯松樹皮下。 1 ex.

§ Tenebrionidae ゴミムシダマシ科

1. *Platydema pallidicollis* クロオヒキノゴミムシダマシ

1979年2月12日, 兵庫県川西市笹部, 枯松樹皮下。 3 exs.

§ Lagriidae ハムシダマシ科

1. *Luprops cribrifrons* アラメヒゲフトゴミムシダマシ

1979年1月14日, 兵庫県川西市笹部, 石おこじ。 1 ex.

兵庫県側初採集

§ Mordellidae ハナノミ科

1. *Mordellistena takizawai* セアカヒメハナノミ

1973年6月24日, 兵庫県川西市笹部。 1 ex.

§ Meloidae ツチハンミョウ科

1. *Meloe coarctatus* ヒメツチハンミョウ

1978年11月29日, 兵庫県川西市大和, 夜。 1 ex.

兵庫県側初採集。

§ Anthicidae アリモドキ科

1. *Anthicus baicalicus* クロホソアリモドキ

1969年9月5日, 兵庫県川西市大和, ライト・トラップ。 1 ex.

§ Cerambycidae カミキリムシ科

1. *Judolia cometes* マルガタハナカミキリ (八木)

1969年6月15日, 大阪府東能勢村吉川下の町。

2. *Brachyclytus singularis* アカネトラカミキリ

1973年1月29日, 兵庫県川西市横路。(山下)

兵庫県側初採集

3. *Rhaphuma annularis* タケトラカミキリ

1978年7月31日, 兵庫県川西市東畦野, 兵庫県側初採集。 1 ex.

4. *Mesechthistatus furciferus* (大垣) マヤサンコブヤハズカミキリ

1977年9月18日, 大阪府豊能町初谷。

1978年9月16日, 大阪府豊能町初谷。

5. *Cagosima sanguinolenta* ハンノキカミキリ

1960年6月12日, 兵庫県川西市笹部, (堀田)。 1 ex.

§ Chrysomellidae ハムシ科

1. *Chrysomela vigintipunctata* ヤナギハムシ

1971年6月17日, 大阪府東能勢村青見山附近。 1 ex.

§ Curculionidae ソウムシ科

1. *Curculio dentipes* クリジギソウムシ

1978年9月19日, 兵庫県川西市笹部, 燈。

1 ex.

2. *Macrorhyncolus crassiusculus*

マツオオキクイゾウムシ

1979年2月11日, 大阪府豊能町吉川峠, 松切株樹皮下。

12 exs.

§ *Rhynchophoridae* オサゾウムシ科

1. *Dryophthorus sculpturatus* キクイサビゾウムシ

1979年2月11日, 大阪府豊能町吉川峠, 松切株樹皮下。

5 exs.

§ *Scolytidae* キクイムシ科

1. *Hylastes parallelus* マツノホソスジキクイムシ

1979年2月11日, 大阪府豊能町吉川峠, 松切株樹皮下。

1 ex.

2. *Hylurgops interstitialis* マツノスジキクイムシ

1979年2月11日, 大阪府豊能町吉川峠, 松切株樹皮下。

3 exs.

3. *Blastophagus minor* マツノコキクイムシ

1979年3月7日, 兵庫県川西市笹部, 枯松樹皮下。

2 exs.

兵庫県側初採集。

オグラカバイロコメツキ伊丹市に産す

有 本 久 之

オグラカバイロコメツキ、*Agriotes ogurae ogurae* Lewis, 1894、は従来兵庫県からの記録がなかったと思われる。1977年4月から伊丹市内の工場の電撃殺虫機の死虫調査の機会を得た。多数の死虫の中より本種を発見したのでここに記録しておく。

工場は猪名川から約200mの距離にあり本種は川原より飛来した様である。

25-VI~25-VII 1977 7頭

25-VI~28-VII 1978 5頭

オオシロカミキリ浜坂町に産す

小 倉 滋

53年7月30日、浜坂町に生徒とのキャンプに参加しオオシロカミキリ(*Olenecamptus cretaceus*)1♂ 採集した。模式標本は兵庫県産であるが、大林一夫氏や小島圭三、林匡夫氏がその分布域を中支東部、朝鮮、九州、対島をあげられている。発生期は6~8月、幼虫の食樹はクワ、ムクの木と報告されているが、本種は本州では稀にしかみられない種であると考えられる。

しかも南方系のカミキリで裏日本の浜坂町のような地域で採集されるのはめずらしい。採集周辺にはムクの木や桑などは観察されなかったが、ネムノキやミズキ、コオソなどの落葉木と針葉樹の赤松とスギ、ヒノキの樫樹が目についた。

このカミキリのいた位置とその習性から、室内の燈火に誘引されて、来たものと考えられるが採集地の周辺は3方が山に囲まれ前方が海であり、燈火のさす方向は建物の条件から海7分、南面の山地3分の周角60°ばかりと見られる。そこにはネムの木が多く見られるので食樹の一つはネムではないかと推定される。

宝塚市のアオマツムシ

泉 春 谷 慎 一

アオマツムシは、4~5年前から急に分布を拡げはじめている。筆者が宝塚市に住みはじめた昭和40年頃は、ファミリーランドのまわりにはおらず、43年に六甲に通勤するようになって、阪急沿線にあるツメイヨシノに細々と鳴いていた。

所で、筆者は昭和52、53の兩年、宝塚市大原野にある少年自然の家に、9月末頃訪れる機会を得た。52年には全く鳴声を聞けなかったが、53年には、広葉樹のある所一帯に拡がっていた。52年にもっと注意して、拡がりを調べておけばよかったと思つたが、後のまつりであつた。とにかく、52~53年に宝塚市北端近くまで拡がったことを記録しておく。なお、51年に川西市平野までは確実に分布していたので、宝塚でも、かなり拡がっていたことは間違いないと思う。

三木市産カミキリの訂正と追加記録

三 木 進

きべりはむし、第6巻第1・2号に報告した「三木市産のカミキリムシ」のデータに誤りがあったので、訂正するとともに、新たに同市内で未記録種を採集したので、追加報告する。

誤 「69. *Oberea hebesceus* BATES ヒメリングカミキリ」

正 「69. *Oberea inclusa* PASCOE

subsp. *infrangrescens* BREUNING

ホソキリングカミキリ」

追加記録

Rhopaloscelis unifasciatus BLESSIG ヒトオビアラゲカミキリ

三木市志染町三津田より持ち帰った枯枝より脱出した。

1♂2♀, 15. 4. 1979. M

これで同市内のカミキリは75種となった。

「キョウトアオハナムグリの分布について」補遺 (兵庫県甲虫相資料・73)

高 橋 寿 郎

筆者は1978年に「キョウトアオハナムグリの分布について」なる報告を発表した(兵庫生物 V11・4:194-197)、兵庫県下での産地は残念ながらその後新に発見出来ていないが兵庫県以外での分布に就いて御教示を頂いたり、報文にも誤りがあつたりするのでそれ等をまとめて此処に発表しておく。

御教示頂いた黒沢良彦、石田 裕、石田正明、黒田裕一、高倉康男の皆々様に厚く御礼申しあげる。

分布： 前に報告したもの以外に次の様な産地がわかった。東から順に記録しておく。

岐阜県河合村(鳥飼、1974)(高倉氏御教示)。

兵庫県： 兵庫県からは仲田元亮氏の報文(1978)で若干新しい産地を加えることが出来た。
川西市大和〔19-V1-1969〕、横地〔26-V11-1970〕、西畦野 3-V111-

1971)、黒川〔11-V1-1972〕、笹部〔22-V-1971, 11-V1-1972, 27-V11-1972, 26-V-1973, 28-V11-1973, 17-V11-1977, 20-V111-1977〕。石田正明氏からは陸宮前〜多井畑〜下畑(神戸市須磨区)の間でV11~V111, 1933~1936に可成りの数を採集したと御教示頂いた。氏は筆者の神戸二中の先輩で多井畑付近の1933年頃は非常に良い環境で本種も多くいたであろうことは当然である。現在は全く様相が変つてしまっているのは残念である。

明石公園の産出状況も余り変つていない。調査も僅かであったが前報文以後採集出来たものを追加しておく。1♂, 1♀, 12-V1-1977, 3♂, 5♀, 26-V1-1977, 26♂, 19♀, 3-V11-1977, 31♂, 9♀, 10-V11-1977, 15♂, 4♀, 9-V1-1978, 24♂, 3♀, 15-V1-1978, 27♂, 22♀, 29-V1-1978, 13♂, 2♀, 12-V11-1978。1975年から1978年間の4年間に採集出来た♂♀の数は♂, 279, ♀, 186であった、尤も之は意識して調べたわけではないので余り参考にならないかも知れない。一般的にうけた印象では♂の方が多いように思われた。

明石公園内の状況は余り変つていない様に思われるが1977~1978年にかけて一部有料公園化としての新しい整地をやっている所があるので若干変つてくるかもしれない(反対運動も行われている)。

またクワガタムシ採集の小・中学生の中にはキョウトアオハナムグリを見付けると踏みつぶして殺してしまうような者が割合いた。樹をゆすぶると落下してくる、暫くするとブーンと飛び立つのが蜂の様に思われるらしい、聞いてみると“こわい”と云っている、そして逃がしてやるのではなく見つけ次第踏み殺そうとする。キョウトアオハナムグリが貴重な虫であると知らないのは幸であるが無暗と踏み殺したりするのは最近の教育の荒廃が感じられ慄然とした。

岡山県：黒田祐一氏から丁寧な岡山市内での本種の産出状況の記録の御教示を得た。即ち昭和16年10月発行岡山一中科学班による博物会報、第6号、山根知之、岡山付近の珍昆虫、I、pp. 7-15の中に“今年初めて金川中学の榎田氏により発見されたものである。5月下旬より8月初旬にかけて発生する。中でも6月に一番多い、全部で20数頭採集した場所は地蔵のみである。此の種は京都近傍にのみ産すると思われていたのであるが中国地方にも発見され新たに産地が加えられたことになる”と記録されていると。黒田氏自身も昭和16年(1941)6月7日採集の本種を御所有とか。この御連絡からすれば数年前既に本種は分布していたことになる。1978年に岡山県環境部自然保護課が発刊した“岡山県の昆虫”(倉敷昆虫同好会が中心になってまとめられた)の中に収められた岡山県の昆虫一覧の中にキョウトアオハナムグリは中部地区の産の記録は

あるが詳しい産地は掲げられていない。

山口県防府市向島(三好, 1965)(高倉氏御教示)。

愛媛県越智郡伯方島(村上和馬, 1959, 矢野俊郎, 1961)。

福岡県黒木町(高倉, 1978)。

熊本県: 前回の記録は不充分だったのでもう一度記録しておく。

阿蘇郡久木野村, 1ex, 28-V11-1955, 田村憲夫採集, 人吉市村山, 1ex, 27-V-1958, 松浪秀太郎採集, 久木野村柿野, 1ex, 10-V111-1961, 大塚勲採集(大塚 勲, 1962)。

宮崎県西臼杵郡高千穂峽, 1♀, 19-V11-1977, 高橋嘉代子採集, 愚妻が遊覧に行った時採集持ち帰ってくれたもの。

鹿児島県串木野(鹿児島県・同, 1964)(高倉氏御教示), 佐多岬(明石, 長尾, 1962)(高倉氏御教示), 大島郡三島村(黒島), 1♂, V11-1978, 藤田 宏採集(藤田 宏, 1978)。

以上の様に産地は加つたがやはり余り多く産する地は明石以外に見当らない。

尚前の報文で Lenz 氏の名前を間違つて書いておりました訂正しておきます(Lenz , Tusiscon)。

参考文献(追加)

村上和馬: 越智郡伯方島の昆虫

松山昆虫同好会時報, №8: 11-15, 1959.

矢野俊郎: 四国産既知甲虫類目録Ⅲ, 多食亜目Ⅱ.

松山昆虫同好会時報, №1.6: 1-20, 1961.

岡山県環境部自然保護課“岡山県の昆虫”(単行本) 1978.

藤田 宏: 鹿児島県三島村

月刊 むし, №92: 16-25, 1978.

仲田元亮: 能勢の昆虫Ⅰ(自刊, 単行本), 1978.

高倉康男: 福岡県のコカネムシ上科

生物福岡, №18: 21-34, 1978.

文 献 紹 介

- 仲田元亮著：能勢の昆虫 I (B5, 405 P., 自刊, 1978・12)。

本書は著者仲田元亮氏が住んでおられる川西市を中心に所謂能勢地域(従つて大阪府・兵庫県両方にまたがる)で約12年間に採集調査を続けられた結果の内甲虫・蝶・半翅目のものをまとめて目録にされたもので甲虫が85科1035種, 蝶が78種, 半翅目が105種記録されている。長期間の採集データが記してあるので種の消長がわかり大変貴重である。たゞこゝまで発表して頂けるのであれば採集頭数も示して頂ければより一層種の消長もはつきりするのにと惜しまれる。甲虫にのみ就いて見れば兵庫県から記録されているのが82科876種あり、今回新に兵庫県産として始めて記録されたと思われるものが3科37種もある。夜間採集、電燈、ライトトラップの方法で割合採集もされているし珍しい種も得ておられる。従つて一つの地域のファウナ調査に長期間実施すると共に之等の方法による調査はどうしても不可欠であると云うことが良くわかる。何はともあれこの様な報告をまとめて発刊された著者に敬意を表すと共に兵庫県産甲虫に関する貴重な文献としてこゝに紹介しておく。引続き調査を続けておられ第2報を発刊される迄追加、訂正等は逐次御発表になられると思われる(本誌にも追加篇が発表されている)。

- 高橋 匡著：豊岡高等学校昆虫標本目録(第5報)。豊岡高等学校生物教室刊, (B5, 14 P., 1978・12)。

昭和52・53年度における但馬地区での調査記録である。第5報として139種が記録された。鞘翅目についてのみながめてみると52種が記録されているがその内11種は兵庫県からは始めての記録である。1975年に第1報を発表されて以来この第5報迄で1669種の但馬地区での昆虫の記録をまとめられている。この地区での昆虫相を知る上にも欠くことの出来ない貴重な文献であると共に兵庫県の昆虫相を知る上の重要な文献の一つである。同定に就いては専門家によるものも多く内容を一層充実されている。(以上、高橋)。

原 稿 募 集

現在手もち原稿はありません。『きべりはむし』Vol. 7, №2 は本年11月にはお手許に届けたいと考えています。長短にかかわらず原稿をお寄せ下さい。原稿は9月末迄にお願いします。また400字詰原稿用紙をお願いします。

『きべりはむし』バックナンバー在庫表

会の資金源にもなりますので是非お買上をお願いします。Vol. 3, №1 (1974), Vol. 3, №2 (1975), いづれも送料共600円, (残部各2冊宛)。Vol. 4, № $\frac{1}{2}$ (1975), Vol. 5, № $\frac{1}{2}$ (1977), Vol. 6, № $\frac{1}{2}$ (1978) いづれも送料共1000円。

編 集 後 記

採集のシーズンになりました。昨年暮なんとか本会を軌道に乗せたいと皆さまにご無理を申し上げましたがお陰で多くの方々からご援助を頂けまづ第1の目的は達したようで引続き第2の目的である会員数最低100名確保、会誌の定期発行と印刷の改善にとり組みたく大方のご協力をお願いしたいと思います。新生の第1回として本誌を発行出来ました。若干の前進があるかと思いますが、原稿もあるだけ投入しまして次の発行の手もちがなく心細い限りです。第2号も発行出来る予算はあります、こちらもおいに協力してほしいと思います。(T)。

きべりはむし 第7巻 第1号

昭和54年5月25日発行

発行・兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町一丁目四四 高橋寿郎方

振替 神戸72052番 電話(078)521-0165

印刷・(株)文尚堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11
